

ほころぶ桃
春泥に行きくれてみて暖かし

中村の女

ついに^{二三}昨日に逢った日さんは、早朝の散歩を缺かきぬといはれた。その時刻は車の数も少ないし、それと舗装のない、土の上をいかに歩む気持のよさは、~~は~~なんといいぬといつて居られた。

ほんとの私たちは、いつか舗装路に馴れてしまひ、~~そこ~~に失~~ふ~~心のも多くあつた気がす

る。あんなに桐下駄のはき心地^きに^はな^りておた。おた私も、駈の踏段や百貨店を歩くのには、いつか草履^{わらじ}が多くあつておた。おたきおた地を踏み、土の踏み心地^ちを^はな^りておた。おたきおた地を

三月近くおた。私はまんとなく夫の泥といふ愛題のあつたしさが、^はな^りておた。おたきおた地を

に凍てゆるみ、今はしつとりと雨に濡れた黒い土、市場の前や駅前のぬ^かる^みの^靴と

下駄あとのみおたは、いよいよ取りもどした